

びわこ東海道 景観基本計画

近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の景観づくり



大津市 × 草津市



序章

1

- 1 はじめに
- 2 びわこ東海道景観基本計画の背景と目的
 - ①背景
 - ②目的
 - ③位置付け
- 3 連携項目とその対象区域
 - ①連携項目
 - ②対象区域

魅力ある対岸景観の形成について

6

- 1 現況
 - ①対岸景観全体の景観
 - ②「対岸眺望ポイント」から観た主な景観
- 2 対岸景観の魅力と課題
 - ①対岸景観の魅力
 - ②対岸景観の問題点
 - ③対岸景観の魅力向上のための課題
- 3 対岸景観形成の目標と目標像
 - ①対岸景観形成の目標
 - ②対岸景観形成の目標像
- 4 対岸景観形成の方針

東海道沿道のつながりある景観形成について

15

- 1 現況
 - ①東海道沿道全体の景観
 - ②宿場町の景観
- 2 東海道沿道の景観の魅力と課題
 - ①東海道沿道の景観の魅力
 - ②東海道沿道の問題点
 - ③東海道沿道の景観形成の課題
- 3 東海道沿道の景観形成の目標と目標像
 - ①東海道沿道の景観形成の目標
 - ②東海道沿道の景観形成の目標像
- 4 東海道沿道の景観形成の方針

屋外広告物による景観形成について

22

- 1 現況
 - ①両市域での屋外広告物の現状について
 - ②屋外広告物の規制状況について
- 2 屋外広告物による景観形成の問題点と課題
 - ①屋外広告物による景観形成の問題点
 - ②屋外広告物による景観形成の課題
- 3 屋外広告物による景観形成の目標と目標像
 - ①屋外広告物による景観形成の目標
 - ②屋外広告物による景観形成の目標像
- 4 屋外広告物による景観形成の方針

パートナーシップによる景観形成の推進について

27

- 1 基本的な考え方
- 2 主体別役割
 - ①市民の役割
 - ②事業者の役割
 - ③行政の役割

参考資料

28

近江八景

序章

1 はじめに

景観と聞くと、目の前の雄大な琵琶湖や美しい山並み、きれいに整った街並みを思い浮かべる人もいれば、日常から少し遠いイメージを持つ人もいるでしょう。

しかし、景観は、琵琶湖や背景の山並みはもちろんのこと、公園や道路、公共施設はもとより、個人の敷地内に立つ建物の外観、門、塀、庭など、私たちの身近にあり、日常生活で目にするもの全てが構成要素となります。

そして、湖岸沿いでのサイクリングやマラソン、大津祭・草津宿場まつりなどに代表されるお祭りのにぎわい、湖面を華やかに彩る花火など、人びとの暮らしや営みもまた、景観に欠かせない要素です。

つまり景観とは、建物や看板、植物の緑など、日ごろ私たちが目にしているまちの様子や風景と、そこにある人びとの暮らしにより育まれた歴史や文化が織りなすものになります。

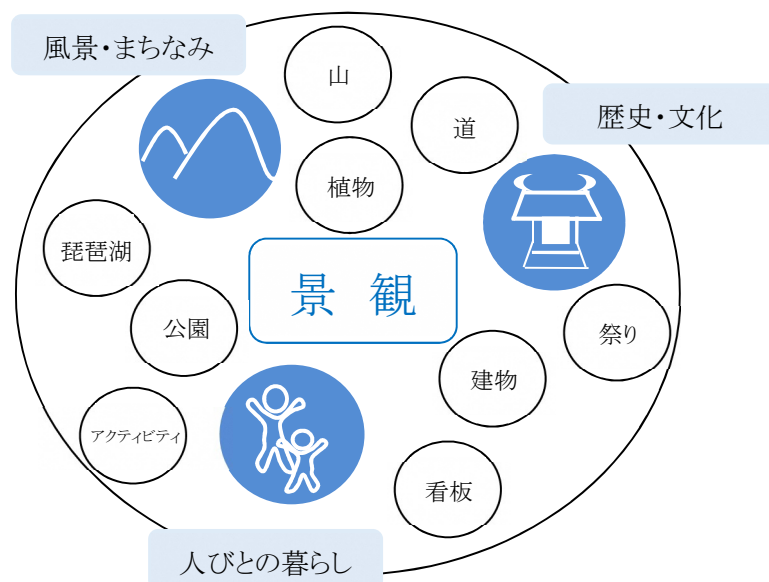
大津市と草津市(以下「両市」という。)は、悠久の歴史の中で、美しい山並みに抱かれながら、雄大な琵琶湖を眺めてともに栄えてきました。しかし、未来より預かっているとも言うべき両市の景観は、私たちの選択次第で、周辺との調和や地域の個性を損なう恐れもあるのです。

そこで、両市民が手を結び、一人ひとりが景観づくりの担い手としての役割を果たしながら、先人より受け継がれてきた魅力ある景観を維持し、新たに創出する美しい景観とともに未来へ手渡すため、この度両市でびわこ東海道景観基本計画を策定しました。

令和3年3月

大津市長 佐藤 健司

草津市長 橋川 渉



2 びわこ東海道景観基本計画の背景と目的

① 背景

中国湖南省にある洞庭湖(どうていこ)付近の名勝・瀟湘(しょうしょう)八景に見立てられ選んだと伝えられる『近江八景』(※1)は、両市に「ゆかり」があり、古くから湖国を代表する名勝として知られていました。

江戸時代には、多くの美術工芸品のテーマとなり、『東海道五十三次』で有名な浮世絵師歌川広重によって描かれたことで、広く全国に知られるようになりました。

両市は、東海道の宿場町「草津宿」、「大津宿」としてともに栄えたまちであり、さらに室町時代の連歌師宗長の詠んだ「もののふの矢橋の船は速けれど 急がば回れ 瀬田の長橋」に由来する、「急がば回れ」のことわざでも「縁」があるまちでもあります。このことわざにあるように、両市は東海道に限らず、琵琶湖上の舟運でも切っても切り離せない関係にあったのです。

両市は、それぞれ大津市景観計画(平成18年施行)、草津市景観計画(平成24年施行)により、美しいまちづくりを目指して様々な景観形成の取り組みを進めてきました。こうした中、平成22年4月、大津草津景観連絡会議の開催を皮切りに、連携協力して景観に関する施策に取り組み、平成25年11月には、「びわこ大津草津景観宣言」を行うとともに、地方自治法に基づく「びわこ大津草津景観推進協議会」を設立しました。

びわこ大津草津景観宣言

琵琶湖南岸の大津と草津は隣どうし、「いそがばまわれ」のことわざを生んだ旧東海道と宿場町などの歴史文化、そして「近江八景」に象徴される景観でつながっています。

両市はともに琵琶湖のさざなみをながめ、四季や一日の移ろいが美しく映えるやまなみや田園など、互いに眺望しあう関係にあります。それぞれの市民が潤いと安らぎのある自然の中で生活をいとなみ、歴史あるまちなみに親しみ、にぎわいのある都市の景観を築いています。

両市の市民が手を結ぶことで、良好な景観資産を維持し、新たに創出した美しい景観ともども、次世代へ手わたすことができます。

わたしたちは、大津市民・草津市民が互いに協力し、価値の高い景観の保全と新たな創造に取り組み、いっそう愛着と魅力あるものとして未来につなげていくことを、共同でここに宣言します。

平成25年11月2日

大津市長

草津市長

▲びわ湖大津草津景観宣言文

(※1) 近江八景 日本の近江国(現・滋賀県)にみられる優れた風景から選ばれた8つの景勝地のこと。浮世絵師の歌川広重の風景画より広く知られるようになった。(28ページ参照)

びわこ大津草津景観推進協議会では、景観宣言を踏まえ「対岸眺望景観(※2)の保全」「東海道沿道の連続性ある景観形成」「屋外広告物の統一した規制誘導」を連携の三本柱として、広域的な景観づくりに取り組んできました。令和元年5月に市民・事業者・行政の三者協働で景観づくりを進めていくために、様々な立場の関係者で構成する「びわこ東海道景観協議会」を設立し、より一層、両市における景観連携を深めています。

そこで両市における、より一層の景観連携の推進のため、地方自治法に基づく両市共同の「びわこ東海道景観基本計画(以下「本計画」という。)」を策定しました。

今後、両市は本計画に基づき、近江八景と東海道を介して結びついてきた歴史や文化を踏まえ、現在のまちづくりの状況、さらにはまちづくり団体や市民レベルでの連携等を重視しながら、魅力ある景観を守り、つくり、将来の市民に継承していきます。

●当時の東海道宿場町の様子（左：草津宿、右：大津宿）



歌川広重「東海道五十三次之内 草津（保永堂版）」



歌川広重「木曾海道六拾九次大津之図」(※3)

(※2) 対岸眺望景観 互いに琵琶湖を挟んで眺望できる景色。琵琶湖の広がりや背景の山並みを一体的に認識することができる。

(※3) 「木曾海道六拾九次」は、中山道に設けられた69の宿場が描かれた浮世絵木版画の連作で、「東海道五十三次」と合わせて歌川広重の二大街道絵ともいわれる。この大津之図では中山道と東海道が重複している区間について、当時の宿場町の様子が描かれている。

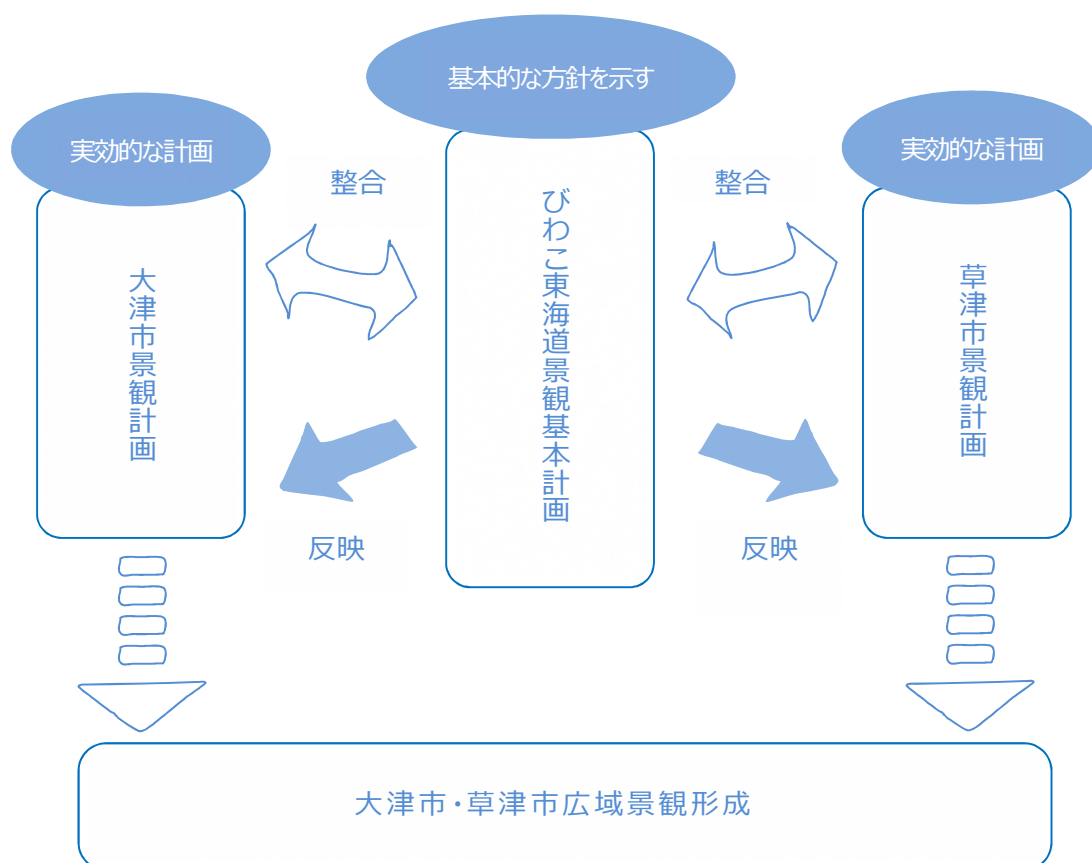
② 目的

本計画は、両市が広域的な観点から良好な景観資産を保全し、創造するために、目指すべき景観形成の目標とその実現に向けた基本的な方針を定めることにより、景観の形成を進めるとともに、いっそう愛着と魅力あるものとして未来に継承することを目的とします。

③ 位置付け

本計画は、両市が広域的な観点から良好な景観保全、形成を図り、並びに景観を活かした魅力あるまちづくりを推進するための方向性を示した、基本的かつ総合的な計画です。

今後、本計画の内容は、両市の広域景観形成に向けた、景観計画の見直しを行う中で反映していきます。



3 連携項目とその対象区域

①連携項目

本計画では、琵琶湖、東海道、近江八景のつながりを踏まえて、両市が連携する項目を次のように示します。

連 携 項 目

魅力ある対岸景観の形成

東海道沿道のつながりある景観形成

屋外広告物による景観形成

②対象区域

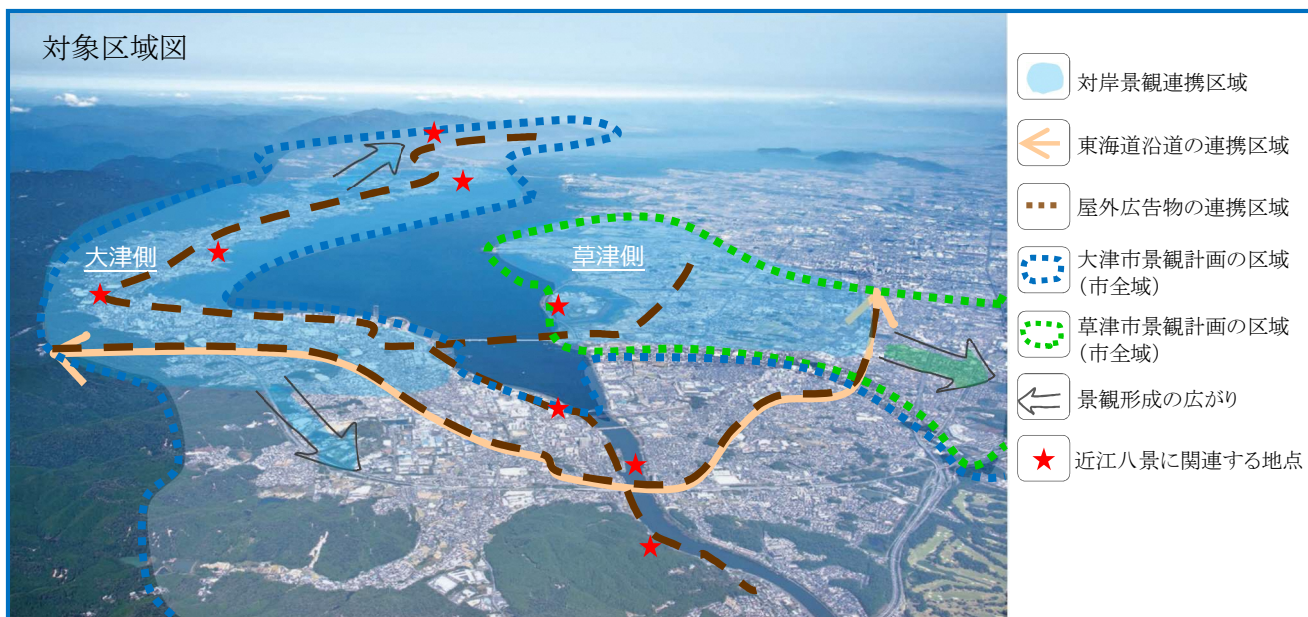
本計画では、両市の3つの連携項目の対象区域を以下の通りとします。

互いに琵琶湖を挟んで眺望しあう関係を重視した、琵琶湖に面する地域を両市で共有の財産とし、琵琶湖の広がりや背景の山並みを一体的に認識することができる区域を『対岸景観連携区域』とします。

両市を結ぶ東海道は、町家や本陣跡、道標などが数多く残っており、歴史の風情を感じながらつながりを意識していく区域を『東海道沿道の連携区域』とします。

両市を結ぶ幹線道路は、沿道のにぎわいを演出している屋外広告物が数多く掲出されており、沿道景観との調和や地域らしさを意識していく区域を『屋外広告物の連携区域』とします。

対象区域図



魅力ある対岸景観の形成について

1 現況

① 対岸景観全体の景観

両市は、それぞれ眼前に広がる琵琶湖の広大な水面、水面に対峙するまちなみ、季節により表情を変える山並みなど、豊かな水と緑に囲まれて歴史と文化を積み重ねてきました。

そうした長い歴史の中で、雄大かつ豊かな自然環境の上に都市景観と田園景観とがつくりだされ、培われてきました。それぞれが互いに共存し、調和することにより、優れた景観が形成され、今日においても青い空と湖の広がりを感じることができます。

このような水と緑の大景観・歴史景観は、両市にとって、時代を越えても変わらない、かけがえのない貴重な財産なのです。



② 「対岸眺望ポイント」から観た主な景観

両市では、互いに眺望しあう「見る」「見られる」関係を重視し、対岸景観の素晴らしさを広く知ってもらい、両市の景観保全や景観形成に対する意識の高揚を図るため、4つの「対岸眺望ポイント」を設定しています。

これらのポイントは、古くから多くの人びとに親しまれてきた、『近江八景』を大切にしたい景観づくりという観点を、最も重要視すべき事項とし、加えて、滋賀県での広域景観保全の取り組みとの関連性、「くさつ景観百選」や大津市景観計画における重要眺望点など歴史及び対岸を眺めたときの眺望性といったことを考慮して、平成28年に選定しました。

■ ①唐崎神社

近江八景のひとつである「唐崎夜雨」^{からさきのやう}にゆかりの場所。広い範囲に眺望が開けており、ほぼ草津市域の湖岸部全体が見渡せます。

境内から松越しに眺める雄大なびわ湖は絶景です。

〔 JR唐崎駅から徒歩10分 〕



■ ②びわ湖大津館

旧琵琶湖ホテルをリニューアル活用した文化施設。「びわこ大津草津景観宣言」の調印式が行われるなど、大津市・草津市に関係の深い場所です。

また、大津市指定有形文化財に登録され、大津市景観計画における重要眺望点にも位置づけられています。

〔 JR大津駅、京阪びわ湖浜大津駅から
江若バス「柳が崎」下車 徒歩3分 〕



■ ③矢橋帰帆島

近江八景のひとつ「矢橋帰帆」^{やばせのきはん}が名前の由来となった人工島。島ができる以前、かつての港があった矢橋公園には、矢橋港石積突堤が今も残され、歴史に想いを馳せることができます。

〔 JR南草津駅から車で13分 〕



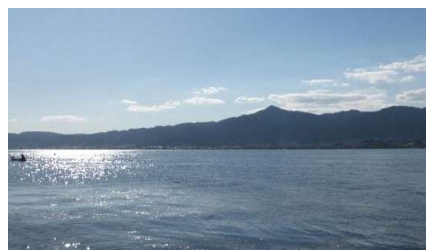
湖上から矢橋を目指すための目印とされていたイチョウ
推定樹齢 250 年



■ ④烏丸半島

琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森などがあり、烏丸半島内では様々なイベントも開催されるなど、多くの人が集まる場所。草津市内の良好な景観を集めた「くさつ景観百選」にも認定されています。

〔 JR草津駅から近江鉄道バス「琵琶湖博物館」
下車すぐ 〕



大切にしていきたい対岸の景観は、「対岸眺望ポイント」からのものだけではありません。一人ひとりが暮らしの中で、折々に親しんでいる魅力ある眺めは数多くあります。それらを守るためにも、まずはこれらのポイントから両市の景観を整理します。

「対岸眺望ポイント」からの主要な景観は次のようになります。

- ◆ 大津市側・草津市側ともに、対岸眺望ポイントが湖岸に近く、雄大な琵琶湖を感じることができます。
- ◆ 湖上を行き交う船やヨットがダイナミックに目に映り、琵琶湖ならではの眺めといえます。
- ◆ 背景となっている緑の山並みが大きな景観要素となっています。大津市側は全体的に高い山並みが連続し、草津市側はまちなみの背景にそびえる近江富士と称される三上山の緑が特徴的です。
- ◆ 四季折々に多彩な表情を見せてくれる風景は、訪れるたびに見る者を魅了します。
- ◆ 日本最大の湖、琵琶湖の一日は草津市側から昇る朝日からはじまります。三上山と朝日の風景は、太古の昔から続く、時の流れを感じることができます。
- ◆ 草津市側から眺める雄大な琵琶湖と夕景に映える比叡山の美しい稜線は、時を忘れるほどの絶景です。
- ◆ 「対岸眺望ポイント」から見る景観には、夕暮れ時や夜に美しい印象をもたらすところもあります。大津市側の高層ビルの夜景は、暮らしや営みを感じることのできる都市景観であり、人と琵琶湖が共生してきた歴史が魅力的な眺めをつくりだしています。
- ◆ 草津市側の湖岸は、大津市側とは対照的に、たくさんの自然が残されており、背景の山並みと琵琶湖の水面の美しさが際立って見えます。



湖岸の釣り人たち



背景の山並み



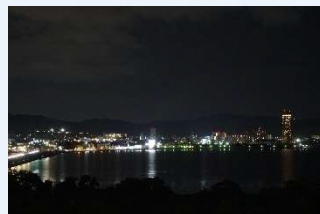
夏のびわ湖大花火大会



冬の雪景色



夕景に映える比叡山



高層ビルの夜景



自然が残されている景色

2 対岸景観の魅力と課題

① 対岸景観の魅力

両市の対岸景観の魅力は、なんといっても目の前に広がる雄大な琵琶湖と、四季折々の表情を楽しむことができる、背景の山並みです。大津市側から対岸の草津市を眺めると、背景には近江富士と称される三上山と、彼方には湖南アルプス(太神山、矢筈ヶ岳、笹間ヶ岳)が一望できます。草津市側から対岸の大津市を眺めると、背景には標高の高い比良山系(比良山、比叡山、音羽山)が圧倒的な存在感を放っています。

これらの豊かな緑に抱かれながら、青い空と湖の広がりを感じることができます。

また、その広がりの中で、暮らしや営みを感じることができる都市景観と、のどかな田園景観が築かれています。湖上の船やヨットなど動きのある景観も、かつて湖上交通の港町であった時代から、水と暮らし、水と憩う人びとのにぎわいが、対岸景観をより魅力的にしています。



歌川広重 近江八景より『矢橋帰帆(保永堂版)』
やばせのきはん

② 対岸景観の問題点

両市の対岸景観には、たくさんの魅力がある一方で、次のような問題点があります。

- 人びとの暮らしや営みを感じるまちなみですが、建物の高さや色彩、デザイン等、背景の山並みや琵琶湖との調和が取れていないところがあります。
- 夕暮れ時や夜には美しい印象をもたらす中高層建築物も、琵琶湖の水際には、景観に大きな影響を与えるため、場合によっては眺望の魅力を損なう恐れがあります。
- 対岸眺望ポイントを中心に、湖岸には美しい対岸景観を眺めることのできる場所がたくさんありますが、それに対する周知・啓発が不十分であり、対岸景観の魅力に気づけるきっかけとして、活かされていません。

③ 対岸景観の魅力向上のための課題

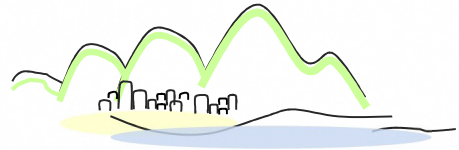
対岸景観の魅力や問題点を踏まえて考慮すべき課題を、次のように整理します。

琵琶湖の対岸景観の保全

目の前に広がる雄大な琵琶湖は、対岸景観の最大の魅力です。青い空と湖の広がり
は開放感にあふれ、湖岸の風にふれると、人びとは心を癒されます。

また、背景の山並みも両市の対岸景観の大きな構成要素となっています。

現在の対岸景観の魅力をつくりだす大きな構成要素である、これら琵琶湖と山並みの
一体的な眺望を守っていく必要があります。



自然と調和のとれた都市景観と、魅力ある対岸景観

両市は今日まで、雄大な琵琶湖と背景の山並みという豊かな自然に抱かれながら、そ
れぞれの場所において、個性と魅力あるまちなみを築いてきました。日本最大である湖の
広がりある景観を、未来へ継承する責任は重大です。

これらの自然と調和のとれた都市景観を意識しながら、より魅力ある対岸景観へと高め
ていく必要があります。

また、建物のデザインだけではなく、建物の間や折々に見える湖への抜ける眺望も配
慮しながら、より魅力あるまちなみにしていく必要があります。



魅力ある対岸景観の周知・啓発

両市の対岸景観の軸となる「対岸眺望ポイント」や、それに続く対岸を眺められる場所
もまた、対岸景観の重要な要素です。魅力ある水辺に人びとが憩い、またアクティビティ
などを楽しむ様子は、動きのある景観として、両市の個性とにぎわいのある魅力的な眺望
につながります。

両市の景観保全や景観形成に対する意識を高めるため、両市の市民が対岸を眺めら
れる場所の素晴らしさを知り、その魅力に気づくことが大切です。



3 対岸景観形成の目標と目標像

① 対岸景観形成の目標

魅力ある対岸景観を未来に継承するよう、これから両市が目指す対岸景観形成の目標を次のように定めます。

目標

湖国の暮らしと一体となった対岸景観を守り、より魅力ある景観を創造する

両市の景観の魅力である雄大な琵琶湖と背景の山並みとともに、人びとは暮らし、営み、歴史を積み重ねてきました。

今日ある美しい対岸景観は、その琵琶湖や背景の山並みなどの個性ある景観要素と、人びとの暮らしが一体となって、その魅力をつくりだしています。

時代を越えて変わらない対岸景観の美しさを守り、この場所で人びとがいきいきと暮らしながら、より魅力が活かされた景観を創造していくことが重要です。

② 対岸景観形成の目標像

対岸眺望ポイントからの見え方など、対岸景観形成の目標像を次のように示します。

① 唐崎神社からの眺望



歴史を肌で感じることができる松越しに見える雄大な琵琶湖と、対岸の山並みを守り、より魅力ある景観を創造していきます。

② びわ湖大津館からの眺望



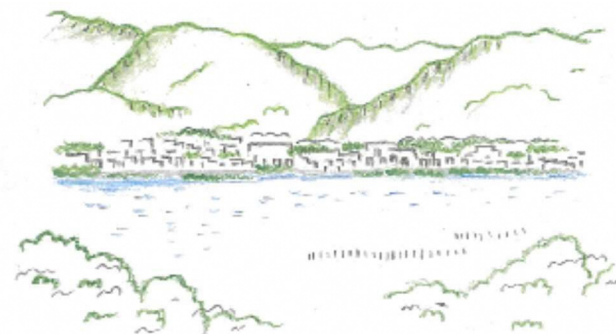
目の前に広がる琵琶湖と対岸の平野や山並みを守り、湖面の船やヨットなど、アクティビティを楽しむ人びととのにぎわいが溶け込む、開放感あふれる景観を創造していきます。

③ 矢橋帰帆島からの眺望



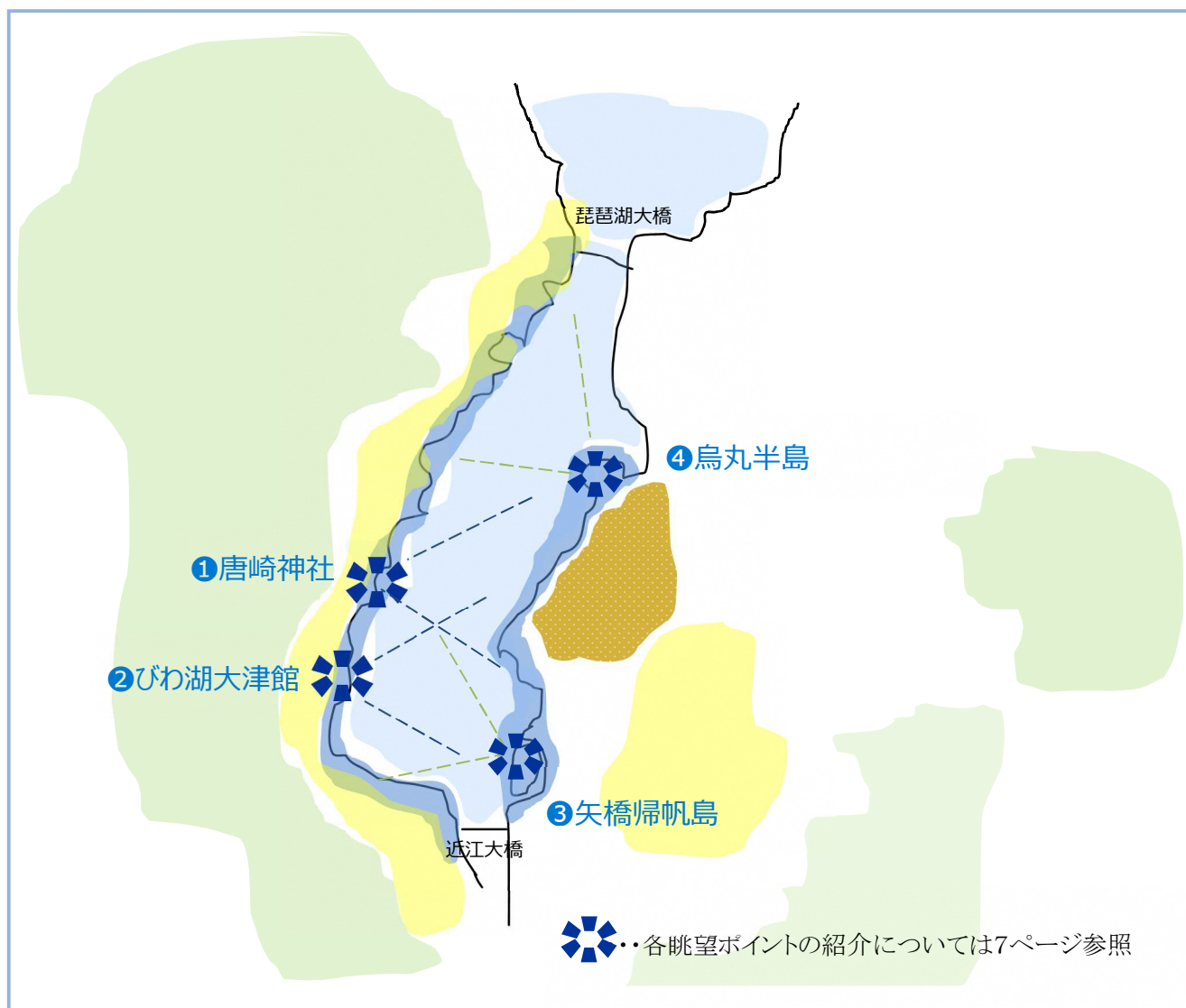
広がりある琵琶湖や比叡の山並みなど、美しい自然景観を守り、これらと調和の取れた魅力ある都市景観を創造していきます。

④ 烏丸半島からの眺望



四季折々に多彩な表情を見せ、圧倒的な存在感を示す背景の比良と比叡の山並みを守り、より魅力ある景観を創造していきます。

■ 対岸眺望ポイントを拠点とした、両市のゾーン図



湖岸ゾーン

対岸景観に配慮した、水辺の景観を守り、創造するゾーン



まちのゾーン

対岸景観に配慮した、調和の取れたにぎわいのあるまちなみ景観を守り、創造するゾーン



田園ゾーン

のどかで広がりのある田園景観を守り、創造するゾーン



山のゾーン

対岸景観を構成する背景の山並みのゾーン

4 対岸景観形成の方針

対岸眺望ポイントを活かした、対岸景観の保全、創造の方針を次のように定めます。

方針

1

両市が互いを尊重し、自然と調和のとれた対岸景観の保全

両市の市民が手を結び、お互いの見え方を考慮して、景観誘導を検討し、雄大な琵琶湖と豊かな山並みが一体となって形成する対岸景観を守り育てます。

また、「対岸眺望ポイント」や、それに続く対岸を眺められる場所の積極的な周知・啓発により、その素晴らしさを知ってもらい、対岸景観の魅力をより感じていただく事で、両市の景観保全や景観形成に対する意識の高揚を図っていきます。

方針

2

「対岸眺望ポイント」を活かした、魅力ある対岸景観の創造

「対岸眺望ポイント」を活かしながら、両市の対岸の2つのまちなみを景観誘導することで、自然と調和のとれた都市景観により、魅力ある対岸景観を創造していきます。互いのまちなみの魅力を高め合いながら、美しい対岸景観を形成し、次の世代に継承していきます。

東海道沿道のつながりある景観形成について

1 現況

① 東海道沿道全体の景観



東海道は、江戸時代の五街道の一つに数えられ、江戸日本橋から京都の三条大橋までの126里6町1間(約496km)を結ぶ、主要な街道として位置づけられていました。街道には53の宿場が設置され、さらに大阪へとつながっていました。当時の様子は、浮世絵師歌川広重の『東海道五十三次』などでも伺い知ることができます。道は平坦で砂が敷かれ、街道の両側には、その土地に適した樹木が植えられて並木となっていました。さらに道路脇には溝があるなど、当時としては、とても整備された道であったと伝えられています。

近江には土山、水口、石部、草津、大津の五つの宿場がありました。中でも草津宿、大津宿は、湖上舟運や交通の要として重要な宿場であり、東海道屈指のにぎわいを誇っていました。人や物の往来の中で多くの文化が生まれ、庶民の間で流行した素朴な民衆画である『大津絵』や日本最初のそろばん『大津算盤』をはじめとするお土産物が広く知られるようになりました。また、街道の楽しみである茶屋での一服からは、万葉時代から知られる井戸の清水で作られた大津の『走井餅』、旅人が陸路で行くか航路で行くか思案しながら食べたと言われる草津の『うばがもち』などの名物が生まれ、今も昔も人びとの心を癒しています。

さらに、豪華絢爛な曳山が巡行する『大津祭』や時代装束で練り歩く『草津宿場まつり』など、街道沿いの祭りや行事はにぎわいある景観を作りだしているとともに、ばったり床几^{しょうぎ ぶしこまど}や虫籠窓^{あわづのせいらん}などの特徴を持つ町家や、近江八景の一つ『栗津晴嵐』として知られる松、織田信長や豊臣秀吉により施工・改修が行われたとされる『瀬田唐橋』^{せたのからはし}など、まちなみの中に歴史の面影に出会える場所が数多く残されています。

東海道は、人や物の往来により、その土地の文化が育まれ、魅力ある景観となっています。現在、両市では、東海道が持つ風情あるまちなみと調和した景観づくりに向けて、電線の地中化や道路の美装化などの取り組みが進められています。



大津祭



草津宿場まつり



ばったり床几



虫籠窓



栗津晴嵐の松



瀬田唐橋

② 宿場町の景観

大津宿は、東京の日本橋から京までの道のりの最後の宿場であり、東海道五十三次中最大の宿場でした。かつては2軒の本陣と脇本陣があり、古くから北国及び琵琶湖周辺の物資が集散する、湖上舟運の要として、道の両側には70を超える旅籠^{はたご}がありました。現在も、まちの至る所に歴史ある町家が残されています。

一方草津宿は、東海道と中山道の分岐・合流点として繁栄しました。また、琵琶湖の矢橋港へ至る矢橋街道が分岐する交通の要衝であり、物資の動きを監視する『貫目改所』^{かんめあらためしよ}が設置されるなど、東海道の中でも重要な宿場とされていました。現存する本陣としては最大級である草津宿本陣は、国の史跡にも指定され、昔のままの姿を残しています。

都市化が進む両市ですが、そのまちなみは今もなお、歴史の面影を色濃く留めています。



史跡草津宿本陣

2 東海道沿道の景観の魅力と課題

① 東海道沿道の景観の魅力

両市の東海道を歩けば、歴史ある町家が立ち並ぶまちなみや、近江八景縁^{ゆかり}の場所、町家だけではない各時代の魅力が活かされた連続性ある景観に出会うことができます。またそこには、歩いてこそ感じることができる、住まう人びとの生活の息づかいや、琵琶湖の気配があり、歩くたびにその魅力を発見することができます。

両市の東海道は、都市化が進む中にも、どこか懐かしい、心安らぐ景観を楽しむことができます。

■ 東海道統一案内看板

沿道景観の統一性・連続性を目指して、東海道の歴史や、町の魅力を発信するために設置する、両市統一のデザイン看板です。



▼ 野路屋（草津市）



▼ HOTEL 講（大津市）

② 東海道沿道の問題点

現在の東海道沿道の景観には、たくさんの魅力がある一方で、次のような問題点があります。

- 都会的なにぎわいを感じる建物やマンション、屋外広告物の中には、歴史を感じる東海道沿道のまちなみや雰囲気と調和が取れていないところがあります。
- 東海道沿道景観を印象づける町家やレトロな建物も、都市化の流れの中で失われつつあります。
- 今もなお、人や物の交流により育まれた歴史や文化がつながる東海道ですが、時代の流れとともに、まちのにぎわいや人びとの想いが薄れつつあります。
- かつての旅人たちが憧れを抱いて歩いた東海道も、今その魅力に触れようと歩く人は、少なくなってきました。また東海道に対する案内も少なく、分かりにくく感じるところがあります。

③ 東海道沿道の景観形成の課題

東海道沿道の魅力や問題点を踏まえて考慮すべき課題を、次のように整理します。



歴史を感じる魅力あるまちなみの保全

両市の東海道沿道には、歴史の風情を感じることができる町家や本陣跡、道標などが数多く残っており、景観の大きな構成要素となっています。

さらに、それらは一つの時代に限定されることのない、様々な時代を想わせる建物や屋外広告物など、厚みのある豊かな歴史と現代の暮らしとの融合により、両市の魅力ある新しい東海道沿道景観が作りだされています。

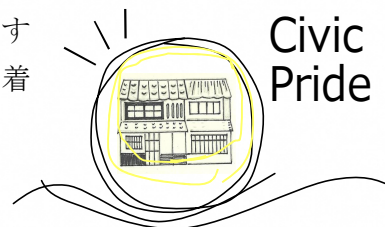
これらの風情と調和の取れた、東海道沿道の歴史が感じられるまちなみを守っていく必要があります。



時代を超えて受け継がれてきた東海道の魅力を守り、大切にしたい想いを育み、つなげる

東京日本橋からはじまる東海道は、長い時を経てもなお、その地域の魅力を色濃く残しながら、現在も京都・大阪までを結んでいます。それは、東海道沿道のまちなみは時とともに変わり続けても、この道に対する人びとの愛着や誇りが、時代を越えても変わることなく受け継がれてきたからこそです。

両市の東海道沿道の魅力ある景観を守るには、東海道を大切にしたい人びとの想いを、次の世代にもつなげていくとともに、人びとの愛着や誇りを育んでいく必要があります。



東海道の歴史や文化を活かし、人びとの交流やまちのにぎわいを創造

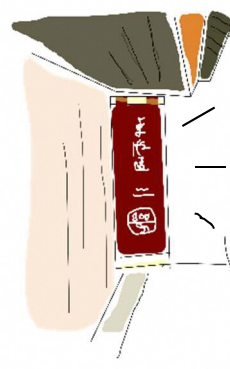
両市の東海道沿道では、人びとの暮らしや営みがいきいきと続いてきたことで、豊かな歴史や文化が育まれ、その魅力ある景観をつくりだしてきました。古くから継承されてきた、これらの歴史や文化を活かしながら、人びとが集い、行き交う景観を創造することは、まちに活気とにぎわいをもたらすとともに、景観まちづくりにとても大切です。



歩きたくなる景観の仕掛け

両市の東海道沿道は、歩いてこそ、その魅力に触れることができると言えます。町家の様式や歴史ある看板、庭のしつらえや商店での買い物など、ゆっくり歩いて楽しめる魅力がたくさんあります。

歩いてこそ感じることができる東海道の沿道景観の魅力に気づき、より楽しんでもらえるような仕掛けづくりが必要です。



3 東海道沿道の景観形成の目標と目標像

① 東海道沿道の景観形成の目標

魅力ある東海道沿道を未来に継承するよう、これから両市が目指す東海道沿道の景観形成の目標を次のように定めます。

目標

東海道のつながりを守り、新たな歴史景観を創造する

両市を通る東海道沿道は、厚みのある豊かな歴史と現代の暮らしとの融合により、連続性ある魅力的な景観が作りだされています。

東海道を歩けば、こうした魅力ある景観とともに、人や物の交流により育まれた歴史や文化に出会うことができます。これは東海道を大切に想う人びとが、長い時をかけて培ってきた大切な東海道のつながりです。

これら時代を超えて受け継がれてきた東海道の多様なつながりを守り、より人びとが集い、行き交うような魅力ある東海道沿道の新たな歴史景観を創造していくことが重要です。

② 東海道沿道の景観形成の目標像

東海道沿道景観の魅力や目標を踏まえて、東海道沿道の景観形成の目標像を次のように示します。



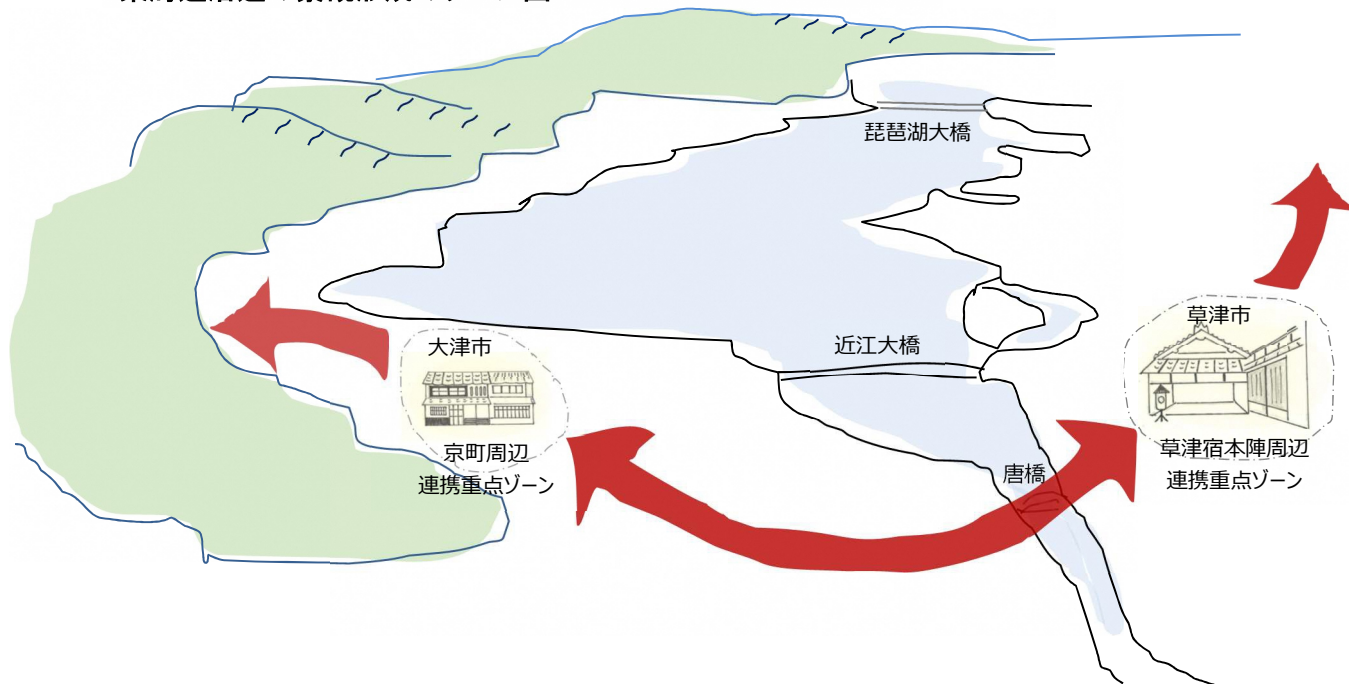
大津市京町通り周辺



草津市本陣通り周辺

両市ともに都市化が進む中でも、様々な時代の歴史が感じられるまちなみと、それを大切にする人びとの想いをつなぎ、時代とともに変化する東海道沿道の新たな景観を創造していきます。

東海道沿道の景観形成のゾーン図



東海道沿道景観の連携重点ゾーン

大津市京町周辺のまともりある町家や草津宿本陣周辺の景観を守り、創造するゾーン



東海道沿道景観のつながりゾーン

東海道のつながりを意識して、沿道景観を守り、創造するゾーン

4 東海道沿道の景観形成の方針

東海道沿道の景観形成の保全、創造の方針を次のように定めます。

方針

1

東海道のつながりを意識した、沿道景観の保全

人・物・文化など、東海道の多様なつながりを意識して、調和の取れた東海道沿道の風情あるまちなみを守ります。また、東海道に対する人びとの想いを育み、東海道をいっそう愛着と魅力あるものとして未来につなげるために、両市の東海道沿道における景観誘導を図ります。

方針

2

東海道の魅力を活用した、新たな歴史景観の創造

まともりある町家や本陣跡周辺などを拠り所とする、両市の東海道沿道が育んできた歴史の魅力を活かしながら、新たな東海道の歴史景観を創造していきます。

歩きたくなる景観の仕掛けとして、東海道統一案内看板を通じたまちづくり等の、まちに活気とにぎわいをもたらすような景観施策を推進していきます。

屋外広告物による景観形成について

1 現況

① 両市域での屋外広告物の現状について

屋外広告物は、景観を構成する重要な要素の一つです。一般的には、宣伝を目的とするものが多く、日常生活に必要な情報を提供するなど、生活に広く溶け込み、人びとの暮らしには欠かすことができないものとなっています。

両市の国道や、県道沿道では、数多くの企業や店舗が立ち並び、宣伝や誘導を目的とする看板が掲出され、店舗の屋上に大規模な屋上看板を設置しているところもあります。これらの看板は、言わば店の顔でもあり、活気とエネルギーを感じるとともに、まちのにぎわいを創出する魅力となっています。

一方で、人びとの営みの中で様々な情報を伝える大切な屋外広告物であっても、無秩序に乱立すればまちの景観が損なわれてしまいます。

両市をつなぐ東海道沿道などでは、古くから大切に受け継がれてきた看板が、歴史ある建物と一体となり、風情ある景観の一部となっているものも多く残っています。

両市では、これらの看板が、まちの貴重な資源として後世に引き継がれるよう「きらッと大津景観広告賞」や、「くさつ景観グランプリ」として顕彰してきました。

美しい景観に「相反するもの」として捉えられやすい屋外広告物ですが、これらの顕彰に選出された看板のように、地域の歴史や個性に配慮することで、まちなみと調和した、良好な景観形成に寄与することができます。



八百与（大津市）



大津魚忠（大津市）



吉川芳樹園（草津市）



太田酒造 道灌蔵（草津市）

② 屋外広告物の規制状況について

現在の両市の屋外広告物規制は、昭和24年の屋外広告物法の施行から始まります。

それまで、国の事務として、①美観風致の維持、②安寧秩序の維持、③善良風俗の保持、④危害防止の4つの観点から広告物の規制されていたものが、屋外広告物法の施行のもと、滋賀県屋外広告物条例により①美観風致の維持（現在は「良好な景観の形成及び風致の維持」）、②危害防止の2点に限定して規制されるようになりました。

現在は、各市において大津市屋外広告物条例（平成21年施行）、草津市屋外広告物条例（平成25年施行）を制定し、屋外広告物の規制誘導を進めています。

各市の規制は、都市計画法に基づく用途地域、風致地区などと連動していることから、草津市の湖岸部を除き、許可の基準はよく似た内容となっていますが、両市の土地利用の違いから、湖岸部については規制が大きく異なるものとなっています。

2 屋外広告物による景観形成の問題点と課題

① 屋外広告物による景観形成の問題点

現在、両市で屋外広告物による景観形成を進めていくには、次のような問題点があります。

- まちのにぎわいや魅力を演出する屋外広告物も、大きさや色彩などで、琵琶湖や周辺のまちなみと調和が取れていないものがあります。
- 屋外広告物の中には、廃業により放置されたものなど、まちの魅力を損なっているものも一部見受けられます。
- 両市をつなぐ幹線道路沿いでは、統一感のない屋外広告物が乱立し、雑多な印象を与えているところがあります。また、東海道沿いでは、風情ある景観と調和がとれていない屋外広告物も一部見受けられます。

② 屋外広告物による景観形成の課題

屋外広告物による景観形成の問題点を踏まえて考慮すべき課題を、次のように整理します。



琵琶湖や背景の山並み、周辺景観と調和した屋外広告物

雄大な琵琶湖と背景の山並みという景観は、両市の景観の大きな構成要素です。中でも琵琶湖や対岸の山並みを感じながらのドライブなどは、爽快な気分させてくれます。これら日常の美しい眺望や周辺のまちなみとの調和を意識した、屋外広告物の在り方を検討する必要があります。



まちなみの魅力を高める屋外広告物の規制誘導

日常生活に必要な情報を提供するなど、人びとの暮らしに欠かすことのできない屋外広告物は、まちに活気やエネルギーを与えてくれます。より魅力あるまちなみへと高めていくために、廃業により放置されたものや無秩序に乱立しているような印象を受ける屋外広告物を規制誘導するような、市域を越えた設置ルールを検討を行うことが必要です。



まちの魅力や地域らしさにあったにぎわいの創造

幹線道路沿いなどでは、屋外広告物が訪れる人に見やすく、安心感を与えることを意識することで、より魅力あるまちなみへと高めていくことが必要です。また、両市のまちなか景観の重要な構成要素となっている東海道は、人や物の交流により育まれた歴史や文化によって、個性と魅力ある景観をつくりだしています。歴史を感じる風情ある景観を守り、これらと調和の取れた屋外広告物によって、地域らしさにあったにぎわいを創造していくことが必要です。



3 屋外広告物による景観形成の目標と目標像

① 屋外広告物による景観形成の目標

これから両市が目指す屋外広告物による景観形成の目標を次のように定めます。

目標

まちなみと調和した屋外広告物で景観を守り、地域らしさを創造する

両市を結ぶ幹線道路は、雄大な琵琶湖や美しい対岸景観を眺めることができ、ロードサイドには商業施設や住宅が立ち並ぶなど、両市のにぎわいある景観をつくりだす重要な路線です。また歴史街道である東海道は、両市の都市景観に風情を与えてくれる大切な場所です。

その場所ごとのまちなみと調和した屋外広告物が並ぶことにより、魅力ある景観を守り、地域らしさを創造していくことが重要です。

② 屋外広告物による景観形成の目標像

屋外広告物による景観形成の目標を踏まえて、両市を結ぶ幹線道路と東海道の目標像を次のように示します。



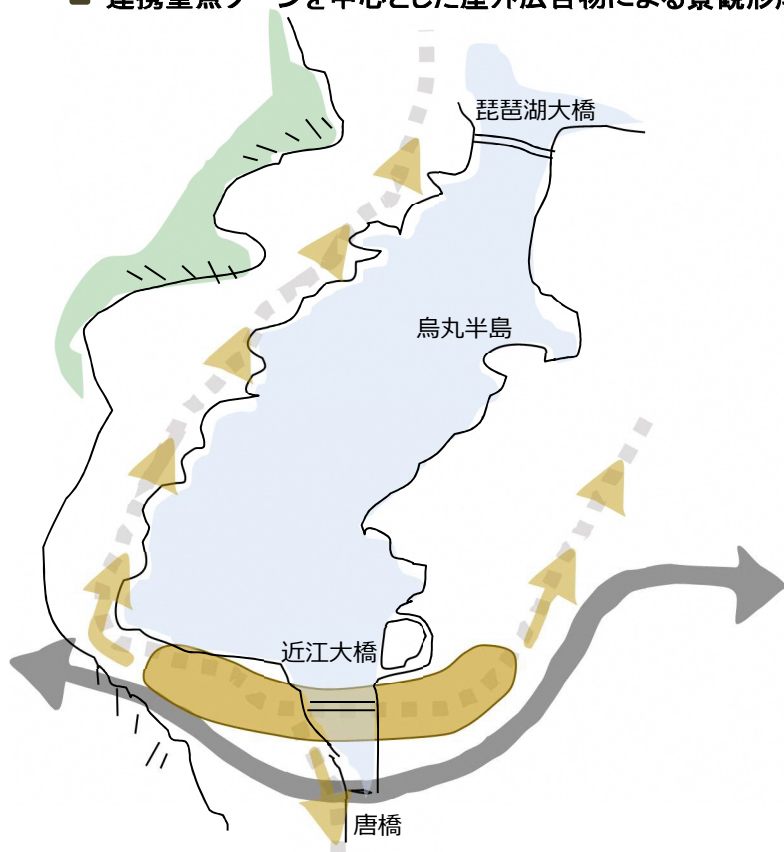
幹線道路の屋外広告物イメージ



東海道の屋外広告物イメージ

屋外広告物がまちなぎわいを担う景観要素として、幹線道路の商業施設や住宅の中に溶け込み、活気とエネルギーが感じられる沿道景観を創造していきます。また、歴史街道である東海道沿道においても、周辺のまちなみと調和した屋外広告物によって、東海道の風情ある景観を守り、地域らしさを創造していきます。

■ 連携重点ゾーンを中心とした屋外広告物による景観形成ゾーンイメージ図



屋外広告物による連携重点ゾーン

対岸景観、沿道景観に配慮した屋外広告物によって、両市で連携し、より重点的に景観を守っていくゾーン

幹線道路の景観形成の広がり

連携重点ゾーンを起点として、両市を結ぶ幹線道路で、周辺に調和した屋外広告物によって、景観形成を広げていきます。

東海道の景観形成の広がり

両市を結ぶ東海道で、その風情ある景観に配慮した屋外広告物によって、東海道のつながりを意識した景観形成を広げていきます。

両市の幹線道路

4 屋外広告物による景観形成の方針

屋外広告物による景観形成の保全、創造の方針を次のように定めます。

方針

1

屋外広告物の新たなルールによる魅力ある沿道景観の保全

美しい対岸景観や周辺のまちなみと調和した屋外広告物が並ぶような、両市共通の規制ルールを設けることにより、魅力ある沿道景観を守ります。

また、まちなみと調和が取れていない屋外広告物に対して、両市で規制誘導や是正指導などの対策を検討し、景観誘導を図ります。

方針

2

屋外広告物の魅力による地域らしさの創造

それぞれの地域の歴史性や地理的な環境を改めて整理し、景観形成ゾーンを中心に、屋外広告物に関する両市共通のガイドラインなどを検討し、魅力的な屋外広告物の設置を推進していきます。

また、良好な景観形成に寄与する屋外広告物の普及を促す施策として、優良広告物の選定や東海道統一案内看板設置等を推進することで、地域らしい景観を創造していきます。

パートナーシップによる景観形成の推進について

1 基本的な考え方

両市の連携による本計画の景観形成は、市民、事業者及び行政が、それぞれの役割を果たしながら、パートナーシップによる活動を通して実現していくことが大切です。景観は、日常の暮らしや営み、ひとりひとりのまちへの想いが大きく影響します。

ひとりでできること、みんなでできること、こうしたひとつひとつの小さな積み重ねが、じっくり時間をかけながら、いつしか景観の魅力を高める大きな力となります。魅力ある景観を守り、創造し、未来の子どもたちへと手渡すため、市民、事業者及び行政のパートナーシップを推進していきます。

2 主体別役割

① 市民の役割

市民は、本計画の広域景観形成について、行政が実施する施策へ協力するとともに、自ら対岸景観や東海道などを、両市共通の大切な景観資源と意識して、それらに対する愛着や誇りの想いを高め、主体的に活動する必要があります。

② 事業者の役割

事業者は、市民、行政との信頼関係を深め、景観形成への積極的な理解と協力を努めるとともに、両市の良好な景観保全に支障を及ぼすことのないよう、責任ある選択を行う必要があります。

③ 行政の役割

行政は、市民や事業者への情報提供や啓発、活動への支援等を積極的に行うとともに、パートナーシップによる景観まちづくりを推進するための体制を整え、本計画の内容を両市の景観計画等へ反映をしていくなど、広域景観形成の実現に向けての取り組みを進めていく必要があります。

<参考資料>

近江八景

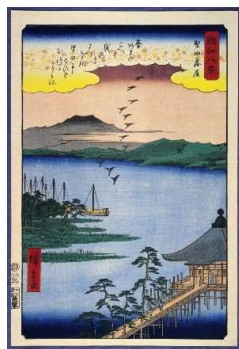
(近江八景の説明については2ページ注釈参照)

近江八景は、日本の代表的な名所絵として屏風絵や陶磁器、蒔絵の絵柄などにさかんに取り上げられ、江戸後期になると、浮世絵でも多く描かれるようになる。そして、歌川広重の作品により、庶民のあいだでも一気にメジャーな名所として定着した。

江戸時代後期の有名な浮世絵師・歌川広重は、近江の風光を愛し、実に20数種類にのぼる近江八景シリーズを世に送り出した。写真は縦版の近江八景で、画面上部には近衛信尹(のぶただ)が詠んだとされる和歌も添えられている。



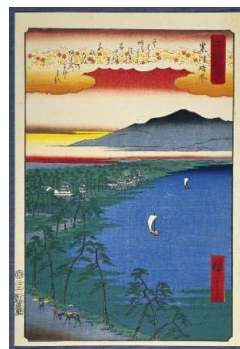
比良暮雪(ひらのぼせつ)



堅田落雁(かたたのらくがん)



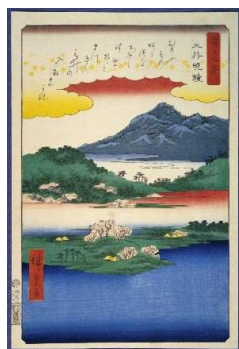
矢橋帰帆(やばせのきはん)



栗津晴嵐(あわづのせいらん)



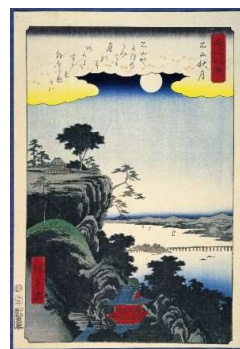
唐崎夜雨(からさきのやう)



三井晩鐘(みいのばんしょう)



瀬田夕照(せたのせきしょう)



石山秋月(いしやまのしゅうげつ)

表 紙 の 写 真

夢見が丘展望台からの景色(大津市)

裏 表 紙 の 写 真

矢橋帰帆島南橋からの景色(草津市)



大津市都市計画部都市計画課

〒520-8575 大津市御陵町 3 番 1 号

TEL 077-528-2770 FAX 077-527-1028

草津市都市計画部都市計画課

〒525-8588 草津市草津三丁目 13 番 30 号

TEL 077-561-6507 FAX 077-561-2486